

第1回国際園芸アカデミー有識者会議事概要

開催日時：令和元年10月16日（水）15:30～16:30

開催場所：岐阜グランドホテル 花の間

出席者：加藤 孝義 清流の国ぎふ花き戦略会議 会長
齋藤 志穂 農業女子プロジェクトメンバー（農林水産省主宰）
柿本 亜矢 （公社）日本フラワーデザイナー協会 岐阜県支部長
橘 俊光 （一社）日本公園緑地協会常務理事
松尾 真吾 岐阜生花市場協同組合 理事長
澤田 みどり NPO 法人日本園芸療法研修会代表理事
田中 治 岐阜県高等学校農業校長会 会長
櫻井 宏 岐阜県農業協同組合中央会 会長
涌井 史郎 東京都市大学特別教授
知事 計10名

1 議事

- ・「国際園芸アカデミーの在り方と運営向上について」

2 有識者会議設置趣旨説明〔農政部長〕

- ・人材育成機関としての国際園芸アカデミー（以下、アカデミーという。）の在り方・運営について議論していただき、目指す方向性を明確にする

3 座長選出

- ・各委員の互選により、涌井委員が座長に選出

4 アカデミーの現状と課題を説明〔農産園芸課〕

5 委員の主な意見

- ・アカデミーの評価委員を務めているが、学園側の改革の意識が薄いように感じる。
- ・アカデミーがどのような学校かをPRし、認知度を高める必要がある。
- ・花き業界の担い手育成は非常に厳しい状況。花き生産だけでなく「花き+ α （野菜、飲食店など）」と広い視野を持ってやらないと未来は厳しい。
- ・現状、これまでの経緯だけでなく、これからどうするのか、学校の基本コンセプトはどうするのか考える必要がある。その上で、この学校の優位性を明らかにして前面に出していくとよい。
- ・花業界の人間として、アカデミーは必要と考える。

- ・ 県民の視点で見ると、40 人の生徒に対し教職員が 20 人と手厚く、これだけの税金を投入することに疑問を感じる部分もあり、アカデミーの改革の必要性を感じる。
- ・ 花の癒し効果を活用した地域と生産者のコミュニティづくりによって需要拡大を図ることが出来る。
- ・ 農業高校の進学先として国際園芸アカデミーの存在は非常に大きな意義がある。
- ・ 人づくりはコストパフォーマンスだけでは測れないが、税金で教育を実践している以上、しっかりとした人づくりを行っていただきたい。
- ・ 出口対策が重要。出口を見据えた教育の重要性を感じる。

座長（総括）

- ・ 学校を継続することだけでなく、場合によっては撤退することも視野に入れながら、メリット、デメリットを整理する必要がある。
- ・ 次回、今西学長から国際園芸アカデミーの具体的な戦略を提言いただきたい。

知事（所感）

- ・ 花き分野にどういう人材が必要であるのか、どれだけ受入れがあるのか。さらに将来に渡ってどう変化するのかを見通さなければならない。
- ・ 税金投入の必然性、意義ということを考える必要がある。
- ・ 県政の課題の中で花をどう生かしていくのか、政策の優先順位、花の振興の位置づけを明確にすることと、この学校の特色、優位性、意義を突き詰めていかななくてはならない。
- ・ 花フェスタ記念公園をどうするかということと、人材育成の観点から花の世界にどうアピールするのかということは、互いに近い議論かもしれない。であれば農大と国際園芸アカデミーの親和性よりは、花フェスタ記念公園と園芸アカデミーの親和性を重視した方がよりよいものができる。
- ・ 一つ一つ丁寧に詰める必要がある。